

# 歴史散歩



## ひかわ 日神の石仏群

津市の最西部美杉町太郎生を縦断する国道368号を名張市方面に向かうと、飯垣内バス停があります。そのすぐ先にある日神石仏群の案内板に従い、名張川の支流日神川沿いに市道を1.6kmほど進むと共同墓地が見えてきます。その一角に県指定有形文化財「日神石仏群 附種子碑ほか」があります。

墓地の階段を上ると奥に石仏群の中心となる阿弥陀如来坐像(像高約70cm)が見えてきます。優しいまなざしと足の柔らかな表現が特徴的なこの阿弥陀如来坐像は、国津神社(美杉町太郎生)境内にある国指定重要文化財十三重塔の四方仏を大きくしたような形で、後背を舟形に彫りくぼめ、像は半肉彫りで、蓮花座は線刻です。周囲には不動明王、矜羯羅・制吒迦童子の種子碑(仏を梵字で表したもの)や阿弥陀如来、薬師如来、釈迦如来、地藏菩薩などの像が並び、平家六代君(平維盛の子)の墓の伝承がある五輪塔もあります。

石材はいずれも地元で産出される大洞石と呼ばれる溶結凝灰岩で、銘文などはありませんが、そ



日神石仏群 釈迦如来ほか

の作風から鎌倉時代後期から南北朝時代のものとされています。かつては、これらの後方に延慶3(1310)年の銘文がある碑があったようですが、明治時代に運び出されたまま行方が分からなくなっています。日神には平家六代君が隠棲したという伝説があり、平家の残党が供養のために碑などを建てたのではないかとわれています。

川の対岸には日神不動院や市指定有形文化財の種子碑、石仏などもあり、石造物が比較的まとまって見られる地域です。

春めいて暖かくなってきたこの時期、山深い日神の地を訪ねてみてはいかがでしょうか。



日神石仏群 阿弥陀如来坐像

